商品名　レボトミン顆粒10% 医薬品基本情報

薬効	1172 フェノチアジン系製剤	一般名	レボメプロマジンマレイン酸塩顆粒
英名	Levotomin	剤型	顆粒
薬価	14.30	規格	10% 1g
メーカー	田辺三菱製薬	毒劇区分	(劇)

レボトミン顆粒10%の効能・効果

統合失調症、躁病、うつ病の(緊張、不安)

レボトミン顆粒10%の使用制限等

1. 昏睡状態、循環虚脱状態、中枢神経抑制剤の強い影響下、アドレナリン投与中＜アナフィラキシー救急治療・歯科浸潤又は伝達麻酔除く＞、類薬で過敏症の既往歴、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴

記載場所	使用上の注意
注意レベル	禁止

2. 頭部外傷後遺症又はその恐れ・疑い、脳炎又はその恐れ・疑い、脳腫瘍又はその恐れ・疑い、皮質下部の脳障害又はその恐れ・疑い

記載場所	使用上の注意
注意レベル	原則禁止

3. 血液障害、心疾患又はその恐れ・疑い、褐色細胞腫、動脈硬化症、パラガングリオーマ、呼吸器感染症、重症喘息、肺気腫、痙攣性疾患又はその既往、てんかん又はその既往、栄養不良状態を伴う身体的疲弊、脱水を伴う身体的疲弊、脱水状態、肥満、長期臥床、不動状態、肝機能障害、高齢認知症

記載場所	使用上の注意
注意レベル	注意

レボトミン顆粒10%の副作用等

1. Syndrome malin、悪性症候群、無動緘黙、強度筋強剛、嚥下困難、頻脈、血圧変動、発汗、発熱、白血球増加、血清CK上昇、ミオグロビン尿、腎機能低下、高熱が持続、意識障害、呼吸困難、循環虚脱、脱水症状、急性腎障害、死亡、血圧低下、心電図異常、QT間隔延長、T波平低化、T波逆転、二峰性T波出現、二峰性U波出現、突然死、QT部分に変化、再生不良性貧血、無顆粒球症、白血球減少、遅発性ジストニア、不随意運動、角膜混濁、水晶体混濁、網膜色素沈着、角膜色素沈着、SLE様症状、横紋筋融解症、CK上昇、血中ミオグロビン上昇、尿中ミオグロビン上昇、深部静脈血栓症、肺塞栓症、静脈血栓症、血栓塞栓症、息切れ、胸痛、四肢疼痛、浮腫

記載場所	重大な副作用
頻度	頻度不明

2. 遅発性ジスキネジア

記載場所	重大な副作用
頻度	5%未満

3. 腸管麻痺、食欲不振、著しい便秘、腹部膨満、腹部弛緩、腸内容物うっ滞、麻痺性イレウス、悪心、嘔吐、低ナトリウム血症、低浸透圧血症、尿中ナトリウム排泄量増加、高張尿、痙攣、意識障害、抗利尿ホルモン不適合分泌症候群、SIADH

記載場所	重大な副作用
頻度	0.1%未満

4. 血圧低下、頻脈、不整脈、心疾患悪化、白血球減少症、顆粒球減少症、血小板減少性紫斑病、食欲亢進、食欲不振、舌苔、悪心、嘔吐、下痢、便秘、錐体外路症状、パーキンソン症候群、手指振戦、筋強剛、流涎、ジスキネジア、口周部不随意運動、四肢不随意運動、不随意運動、ジストニア、眼球上転、眼瞼痙攣、舌突出、痙性斜頸、頸後屈、体幹側屈、後弓反張、アカシジア、静坐不能、縮瞳、眼内圧亢進、視覚障害、錯乱、不眠、眩暈、頭痛、不安、興奮、易刺激、痙攣、過敏症状、光線過敏症、口渇、鼻閉、倦怠感、発熱、浮腫、尿閉、無尿、頻尿、尿失禁、皮膚色素沈着

記載場所	その他の副作用
頻度	頻度不明

5. 体重増加、女性化乳房、乳汁分泌、射精不能、月経異常、糖尿

記載場所	その他の副作用
頻度	5%未満

6. 肝障害

記載場所	その他の副作用
頻度	0.1%未満

7. 嘔吐症状を不顕性化、起立性低血圧、高熱反応、血圧急速変動、呼吸抑制、Syndrome malin、悪性症候群、肺塞栓症、静脈血栓症、血栓塞栓症、胎仔死亡、流産、早産、胎仔毒性、哺乳障害、傾眠、呼吸障害、振戦、筋緊張低下、易刺激性、離脱症状、新生児薬物離脱症候群、錐体外路症状、ジスキネジア、脱力感、運動失調、排泄障害、昏睡、中枢神経系抑制、血圧低下、激越、情緒不安、痙攣、口渇、腸閉塞、心電図変化、不整脈、接触皮膚炎、蕁麻疹、過敏症状、突然死、死亡率上昇

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

レボトミン顆粒10%の相互作用

1. 薬剤名等 ： アドレナリン

発現事象	作用を逆転させ重篤な血圧低下	投与条件	-
理由・原因	アドレナリンはアドレナリン作動性α、β－受容体の刺激剤であり、本剤のα－受容体遮断作用により、β－受容体刺激作用が優位となり、血圧低下作用が増強	指示	禁止

2. 薬剤名等 ： 中枢神経抑制剤

発現事象	麻酔効果の増強・延長、血圧低下、睡眠＜催眠＞・精神機能抑制の増強	投与条件	-
理由・原因	相互に中枢神経抑制作用を増強	指示	慎重投与

3. 薬剤名等 ： 降圧剤

発現事象	起立性低血圧	投与条件	-
理由・原因	相互に降圧作用を増強	指示	慎重投与

4. 薬剤名等 ： アトロピン様作用を有する薬剤

発現事象	腸管麻痺、頻脈、排尿障害、口渇、眼圧上昇	投与条件	-
理由・原因	相互にアトロピン様作用を増強	指示	慎重投与

5. 薬剤名等 ： ドパミン作動薬

発現事象	相互に作用を減弱	投与条件	-
理由・原因	ドパミン作動性神経において、作用が拮抗	指示	慎重投与

6. 薬剤名等 ： アルコール

発現事象	眠気、精神運動機能低下	投与条件	-
理由・原因	相互に中枢神経抑制作用を増強	指示	注意

7. 薬剤名等 ： 飲酒

発現事象	眠気、精神運動機能低下	投与条件	-
理由・原因	相互に中枢神経抑制作用を増強	指示	注意

8. 薬剤名等 ： ドンペリドン

発現事象	錐体外路症状、内分泌機能調節異常	投与条件	-
理由・原因	ともに中枢ドパミン受容体遮断作用を有する	指示	注意

9. 薬剤名等 ： メトクロプラミド

発現事象	錐体外路症状、内分泌機能調節異常	投与条件	-
理由・原因	ともに中枢ドパミン受容体遮断作用を有する	指示	注意

10. 薬剤名等 ： リチウム

発現事象	重症の錐体外路症状、心電図変化、非可逆性の脳障害、突発性のSyndrome malin＜悪性症候群＞、持続性のジスキネジア	投与条件	-
理由・原因	抗ドパミン作用の増強	指示	注意

11. 薬剤名等 ： 有機燐殺虫剤

発現事象	徐脈、縮瞳	投与条件	-
理由・原因	本剤は有機燐殺虫剤の抗コリンエステラーゼ作用を増強し毒性を強める	指示	注意

12. 薬剤名等 ： アドレナリン含有歯科麻酔剤

発現事象	重篤な血圧低下	投与条件	-
理由・原因	アドレナリンはアドレナリン作動性α、β－受容体の刺激剤であり、本剤のα－受容体遮断作用により、β－受容体刺激作用が優位となり、血圧低下作用が増強	指示	注意

薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量
Drug Intelligence Reinforce
医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.